姉妹都市提携35周年 取り組み企画

り 開 催 で賑

島町 キロ 会が4年ぶりに開催された。 約300 2023年5月21日 一豆島 て、 豆島町で、 0 0) 2 部の 運営の 姉妹都市提携35周年をお祝. プロジェクトは、 0人が参加し、 コーディネートを行った。 1 ボランティアと市民ラン オリー スに分かれて疾走した。 ブマラソン全国 (日)、 茨木市と小豆 1 全国から フ、 香川 1 ()

> 島島民は島の環境や 荷物管理を行った。 ミ箱の作成とランナー 運営ボランティアは、 に対する意識 「世界の持続可能 た島民の高 が高 な観光 ゴ ゴ





小豆島プロジェ

クト

の分別を行った。 ラソン開催中に出たゴミ 類のゴミ箱を用意 連続で選ばれ 地TOP100選」に2年 でもある。 当日は また、 る理 10 由

行ったボランティア活動 入りを目指す大切な時間ともなっ は、 島 民の 仲 間

島の方々と一緒になって

島 の環境・ゴミ意識を体感 運営ボランティアで

誇 らしい気持ちに

が



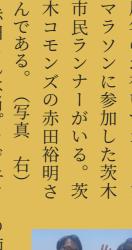
小豆島町長(左から3番目)/茨木市長(右から2番目)

が続い 町長は 越しの再会になっ ても嬉しそうだった。 承しながら、 来た。特に、 の写真撮影を行うことが出 お世話になった方である。 江町長は1 プロジェクトとしては7年 てる事 先輩方の想い 期生の先輩方 小豆島町の大 現在まで活動 に対し 両首長 を継

両地域 写真撮影

と

市 周 t 小 マラソン 年 に、 民ランナ 豆島プロジェクトとと 0 お 姉 に 祝 妹 参加 都市提携35 1 が で オ 4 した茨 つりし る。 茨 木 ブ



ん



た。 だとの事 当日に向 画で大変お世話になっている。 赤田さんは当プロジェクトの ク 1 メンバ け、 10 キロ 仕 か らの 事終わりにウォー 誘いに応えてくださっ の部に出場し見事完走 姉妹都市ランチ企 今回、 キングに励 プロ た。 ジ

想いを胸に走る茨木市民 豆島プロジェクト

き、 リー 施後 込め 誓」 5 日 0 め 象徴 て赤 に活 頃 レ には 7 の感謝 まさに ブ女王 性 姉妹都市交流を 田 お な 化 さん 願 る時 姉 か させる意 は の気持ちも込 小 い 豆 をし 妹 6 花花 島 用意し 都 間 選 束 た。 が 市 町 手 交流 を頂 流 0) 味 官 Z 才 実 た



と 巡る小 Sで見ていた場所へ

5, 験。 普 や で見てい か 段 醬 つ 鶴

た木桶

0)

見

油

0)

味

比

ベ

を

体

は

イ

ス

タ

グ

ラ

たヤ

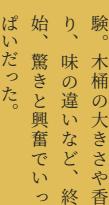
7

口

ク

醬

油





I

ある。 ケンジ 美術家のヤ 木市出身の ル ド の作品 現代 は茨

小豆島プロジェク

出会いながら、

様々なきっ

かけ

はさらに両地域

茨 カ 民 伝 え

小

物を紹介しながらの島巡りはあっという間 オリーブマラソン前 豆島を巡った。 小豆島で行きたい所を巡り、 日 から小豆島 へ向 かい、 。 の 時間だった。 美味 赤田さんと小 しい食べ

姉

妹

都

市

ラン

チ

企

画

で

醤

を使

用

7

か

赤

田

さ

h

が

行

き



ある 港にある「スタ 神戸港からの玄 関口である坂手 と南茨木駅前 . 「サン アンガー 一切だ。 は

僕たちの存在は知 た時、 どうやら、 で参加を決めた。 という気持ち一心 お祝いしたい。 市提携35周年 ンには、 は知らなくても、 かげで、 話になっていたお 対面である。 と小豆島町長は なった。特に、 誇らしい気持ちに の写真撮影を行え って頂いていた。 「きっかけ」 オリーブマラソ - 繋 両地域の首長と 先輩方がお世 ものすごく が 僕の存在 り 物事に 一姉妹都 が大